

進み始めた、青年の島での稲作支援プロジェクト

◆第 15 回平和友好訪問団（名誉団長：吉田忠智参議院議員、団長：君島一字 一行 7 人）が昨年（2011）年の 11 月 20 日～27 日、青年の島で稲作状況視察の他、ハバナ、トリニダー、サンタクララも視察してきました。

滞在中、CUBAPON と長年、友好関係にあるキューバ諸国民友好協会（ICAP）、キューバ労働組合センターを表敬訪問し意見交換しました。（詳細は報告書『カリブの社会主義 XIV』参照）

また在ハバナ日本国大使館も表敬訪問し、青年の島で進められてきた「草の根・人間の安全保障無償協力」の進捗状況について伺ってきました。この件は、2010 年 11 月の友好訪問で、団長であった又市征治参議院議員（クバ



青年の島プロジェクト担当者達と訪問団（2011 年 11 月 22 日）



キューバ労働組合センター（CTC）との会談後（2011 年 11 月 21 日）

申請が本国に回送されている旨伺いましたが、吉田忠智参議院議員らの尽力で訪問団帰国後、外務省国際協力局にも要請してきました。

◆草の根無償資金協力による青年の島での稲作支援プロジェクトが認定され、2 月 1 日、青年の島において調印式が行われた旨、現地から連絡がありました。



調印式で、駐キューバ西村大使、NGO ゴンドバッド代表（2 月 1 日）

を呼び掛けていきたいと思います。

◆ポンプの効用が確認されました。CUBAPON は、とりあえず、緊要でかつ出来ることとして、昨年 4 月給排水ポンプ 2 機とホースを贈呈してきました。今回の訪問団は、その効用状況を視察してきました。

——送った 1 台は島の西、ラ・デマハグアのマルシア・ミヤザワさんが使用していました。ミヤザワさんは日系人会長で青年の島大学の先生である宮沢昇さんの甥である。

今回はミヤザワさん他 2 家族が 50a で作付され、1118kg（モミ重）収穫でき、単収は 224kg/10a を得ることができたとのこと。話によれば、この単収は周辺の収量の倍以上を収量となり、ポンプの効果が出ているとのことでした。今年は雨季である 7、8 月雨が少なく、ポンプによる灌水の効果が特に出ているとのことでした。また、直播でなく苗を移植したことによる効果もあるように思われました。

ポン代表委員）が在キューバ日本大使館を訪問した際、大使館側から「草の根・人間の安全保障無償資金協力」についての助言をいただき具体化してきたもの。「草の根無償」とは、開発途上国で活動する NGO などが実施する草の根レベルの開発プロジェクトに対して上限千万円を在在外公館が資金援助するもので、そのことを日本人会と青年の島大学に伝え、農業機械などのハード面は NGO を通して「草の根無償」で、クバポンは早急に必要とされているポンプと研修等に関わるソフト面で支援することになりました。

在ハバナ日本国大使館での会談の際、すでに



サンタクララで医療施設視察する訪問団



稲作の状況を視察 (2011年11月22日)

青年の島、ハイメさんからの報告

クバポンの皆さん

2/1 日本国大使が青年の島を訪れ、稲作プロジェクト出資合意書に署名いただきました。このような結果を得られたのもクバポンの皆様の活動のおかげです。青年の島大学をはじめプロジェクト始動による全ての受益者を代表して感謝申し上げます。

《近況活動》

大学では「ロス・パラシオ」研究所と共同で20種の米の導入および増産をめざし、2ヶ所の地区で作付けをしました。(右写真)

ただし、取水した人口湖は降雨が少ないため、水位が下がり、50mのホースでは足りず一旦水を溜め、再度ポンプを引いて灌水したとのことでした。また、ポンプの使用時間が長かったため、軽油の使用が多くなったこと、軽油は政府からの配給が可能であれば非常に安く受け取ることができるが、市中で購入すると1L当たり1.15CUC(日本円で約92円)と非常に高く、とても自前資金では購入できずに支援した燃料代を活用してようやく買うという状況でした。

もう1台は島の中央北にあるシロ・レドンドのアルベルト・ハンザワさんが使用していました。ここは4月に訪問し、田んぼ

も見学したところでしたが、収量は50kg程度と少ないでした。この原因は①圃場の均平が悪く、水かかりが悪いところが出たこと、②いもち病等が病害虫が発生したこと、③直播のため、管理が不十分になったことのように思われました。



直播から育苗へ転換する (2012年2月2日)

また、窒素、リン酸、カリ等は一定程度支給されますが、地力が少なく、後半の栄養供給が足りないようで思われました。

ポンプの使用は取水源が近いため、ミヤザワさんの3分の1で済んでいるようです。

両農家ともいづれにしろ、ポンプが無ければ作付けもままならず、これまで収量が上がっていなかったことを考えればポンプの効果が確認できました。——菊田仁・レポートより

なお、今年の5月、12月に技術指導として、菊田仁さんが青年の島を訪問します。

◆「キューバ稲作支援プロジェクト」へのカンパを継続してお願いいたします。

プロジェクトは3年計画になっています。継続して支援を進めていきたいと思えます。

2011年度・キューバ連帯「稲作支援プロジェクト」への協賛カンパご協力の程よろしくをお願いいたします。協賛いただいた方には、『キューバ稲作事情報告書』を後日郵送いたします。近々に第2号送付。

◎郵便振替口座番号：00170-2-195919

◎加入者名：日本キューバ連帯委員会

◎一口3000円×()口

◆稲作支援を見守る～第16回キューバ平和友好訪問団の案内

11月下旬に青年の島稲作事業の経過視察、医療視察、2013年にモンカダ兵営襲撃60周年を迎えるキューバ視察を組み込んだ友好訪問団を催行する予定です。詳細は、次号CUBAPONニュース(6月予定)で案内。旅行社IFCへお問い合わせください。

◆『経済封鎖下のカリブの社会主義2012年版』(頒布価800円、送料込、3月初旬発行)キューバの今をレポートし続ける本書の頒布に御協力ください。

◆第6回キューバ連帯アジア太平洋地域会議参加者募集しています。詳細は、お問い合わせ下さい。3月22日～25日、於：プノンペン。

【2011年度・キューバ稲作支援会計報告】 2012.2.1現在

◎収入の部

- ・団体：5,300,000円 15団体(30万円～50万円)
- ・個人：201,000円 25人、67口分(クバポン支援カンパ、一口3,000円+α)
- 合計：5501,000円

◎支出の部

- | | |
|---|------------|
| 1. 農業用配水ポンプ2台、ホース代金
(上海⇒ハバナ空路輸送に関わる経費、翻訳手続き料等含む) | ¥449,000 |
| 2. 稲作技術に必要な研修・調査・訓練の為の用品
(パソコン2台、デジタルカメラ、USBメモリー等) | ¥106,100 |
| 3. 配水ポンプの輸送に関わる経費
(ハバナ⇒青年の島海上輸送に関わる経費) | 131.08 CUC |
| 4. 配水ポンプの当面の実可動に必要な燃料費 | 500.00 CUC |
| 5. ポンプメンテナンス費 | 68.92 CUC |
| 6. 調印式交流に関わる経費(上記3. 4. 5. CUC含む) | ¥223,969 |
| 7. 調査・技術支援派遣旅費補助(延べ7人分) | ¥1,411,470 |
| 8. 連絡情報等翻訳費 | ¥80,000 |
| 9. 稲作支援打合せ(1月、3月、6月計3回分)
(交通費含む) | ¥65,848 |
| 10. 印刷事務費・連絡通信費
(振込手数料含む) | ¥94,720 |
| ●合計：2,431,107円(700 CUC含む) | |

◎残高：3,069,893円

※留保基金は今後の物的人的技術支援費(2012年～2014年)、通信連絡費、報告集、印刷費等に執行予定

※今後の技術者派遣経費(2012年、2013年の各年2回)、常駐派遣経費含(2014年から)、都合500万円のため協賛費を継続して呼び掛け積み立てる。

青年の島 稲作支援本格化へ始動

君 島 一 宇

今回の訪問は、昨年社民党又市征治参議院議員に続き、同党吉田忠智参議院議員に参加いただいたことでキューバの日本大使館の様々な協力をいただき、訪問団にとって大変有り難いものであった。

訪問団は、11月20日夜ハバナ到着。翌21日CTC（キューバ労働中央組織）を表敬訪問、昼には日本大使館の招待を受け懇談と昼食会、そして午後ICAP（諸国民友好協会）を表敬訪問後、夕方の便で青年の島へ飛んだ。22日は、団全体で現地稲作支援プロジェクトの青年の島「ヘス・モンタネ・オロペサ」大学の主要メンバーであるノボル・ミヤザワ氏、ハイメ・ネグリン・ルイス氏をはじめ多くの関係者と懇談した。ここで明らかになった事は、3月にクバポンが支援送付した配水ポンプ等は有効に使用され、稲作は日系人三農家、作付約50アール、収穫約1・4トンであった事が報告された。日本の収量と比較することはできないが稲作が緒に就いた事は確かである。現地プロジェクトの目標は向こう三年間で4つのCCS協同組合に所属する日系人を含む40農家で作付面積214ヘクタールを目指すというものであった。誠に大きな目標である。

さて訪問団は3日目から別れ、私と菊田氏を除くグループはハバナに戻り、サンタクララ、サンクティ・スピリトゥ、トリニダーと主要な街や、医療施設の訪問を続けた。

青年の島に4日間滞在した私と技術指導担当の菊田氏は支援した配水ポンプを使って作付した日系人三世のマルシア・ミヤザワさんとアルベルト・ハンザワさん宅をそれぞれ訪れ、米作りのよろこびや苦労話など懇談し、配水ポンプがきちんと保管されていることも確認した。

さて、キューバ訪問初日、ハバナの日本大使館公邸で西林万寿夫大使、近藤猛参事官、岩崎哲也一等書記官との懇談の中で西林大使は、クバポンが行っている稲作支援活動を評価した上で次のような日本大使館としての考えを明らかにされた。

- 一、草の根・人間の安全保障無償資金協力を活用し、「青年の島稲作生産強化計画事業」を実施したい。
- 二、その事業目標は、日系人が多く居住する青年の島、特別行政区において米の生産増加の為に稲作の強化を目指すこと。これは、対キューバ経済協力の重点分野である「食糧増産」及び「環境保全」の課題に合致している。
- 三、事業内容は、国際NGO（ムンドゥバット基金）を通じて青年の島で稲作を営む日系人組合員を含む四つの協同組合の農機具を整備し、同組合に対して稲作技術教育を行う青年の島大学に対し講習機材を整備供与する。
- 四、供与予定額は約80、000ユーロ（約900

万円）

五、事業実施までのプロセスとして日本外務省の承認と国際NGOとの署名手続きは2012年3月までに終わり、現地への機材輸送までは約一年半の時間が必要である。
という内容であった。



活躍していた給排水ポンプ

このようにクバポンの稲作支援の活動は、それ自体にとどまらず日本政府の海外事業の一部も活用して進める状況となった。これは、冒頭述べたように社民党の又市議員及び吉田議員が二年続けて我々の訪問団に参加していただいた結果、キューバの日本大使館が動いてくれたものと思う。自治労組織内のお二人に感謝の限りです。

さて「草の根……無償資金協力」とタイアップして今後クバポンとしてどのような支援を続けるかについて、現地プロジェクトのミヤザワ氏、ハイメ氏と次のようなことを大筋確認した。

- 一、技術指導にあたる菊田氏の長期滞在は2014年4月からを基本とする。（その理由は、「草の根……無償資金協力」による農業機材が現地プロジェクトに整備されてからの方が有効に指導できる。）
- 二、それまでの間およそ、5月と12月の田植時期に短期間（一週間程度）青年の島を訪問し教育、研修を含め技術指導にあたる。
- 三、クバポンはこの事業成功に向け、2014年12月までの3年間、合計2、400CUCペソを支援する。その用途は農業機材の燃料代、稲種子代、協同組合農家の教育・研修代とする。

私にとって今回のキューバ訪問は9回目である。1994年、IFCCの鎌田氏の協力を得てクバポンを設立し、アメリカの経済封鎖と懸命にたたかうキューバ労働者と連帯したい、と続けてきた活動は18年が経ち、交流から「食糧増産」の米作り支援まで行き着いた。これは、新潟をはじめとする自治労社民党支持県本部の大きな協力があってこそできたこと、と心から感謝している。そして事業が完結するまで私自身も関わる決意であるが、ご協力もお願いしたいと思う。

～『経済封鎖下のカリブの社会主義XIV』より
第十五回平和友好訪問団団長
CUBAPON代表委員

エアーカナダで行く 成田⇄ハバナ往復航空券

平日出発

¥100,000~



土日出発

¥110,000~

お申込受付期間:2012年1月~3月31日迄
上記料金クラス(L)売切れしだい終了!!

- 成田国際空港施設使用料、現地空港税、航空保険料、燃油サーチャージは含まれておりません。
- 復路週末料金：カナダ発日が金曜または土曜の場合は¥6,800 プラス
- 出発日の 21 日前までのご予約が必要です。
- 現地の宿泊、送迎、日本語ガイドなど別途費用にて手配可能です。ご相談ください。

その他お任せください!!

航空券手配・宿泊パック・団体旅行のお手配

アジア・ヨーロッパ・中米、その他

お問合せ下さい!!

